

**令和元年度 あいち外国人の日本語教育推進会議〔令和元年6月5日（水）開催〕
における出席者からの教育委員会への御質問について**

Q 1 今年度から始まった特別支援学校への教育支援員について、何校に配置されているか。
また、何校から申請があり、何名の教育支援員が配置されたか。

A 1 6月10日現在、15校から幼児児童生徒教育支援員配置計画書が提出され、
希望する学校に532時間を内示した。
10校に、12名の外国人幼児児童生徒教育支援員を配置している。

Q 2（若者・外国人未来応援事業において）高卒認定試験を受ける子供たちは、
どのような子供たちか

A 2 若者・外国人未来応援事業は、中学校卒業後の進路未定者や高校中退者を主な対象者
として募集・実施しており、平成30年度において学習支援を受けた方は名古屋、豊田、
豊橋3地域合計で52名（実人数）であり、うち13名（25%）が外国籍の方である。
高卒認定試験を受験した者は、外国籍の方のうち1名（17歳ブラジル国籍）であり、
8月及び11月の試験で全科目合格を果たした。なお、大学進学が高卒認定試験受験の
動機と聞いている。

その他、外国籍の方の状況は、高校の勉強についていくことができず中退してしまっ
たが、再び高校受験にチャレンジするために学習支援を受けていたり、漢字が苦手なた
めに高校での勉強が遅れがちの方が補完的に学習支援を受けているケースがある。また、
一部、高校受験を目指して中学生が学習支援を受けているケースもある。

Q 3 高卒認定対策ということで各科目の指導者がいるか、整備されているのか

A 3 名古屋、豊田、豊橋の3地域において、学習支援の指導者の状況は地区ごとに異なる
が、いずれの地域も小・中学校のOB、高校の再任用教諭や、教員免許状に加え、2級
キャリアコンサルタント技能士の資格保有者等、経験豊富な方が指導者として関わって
おり、支援する科目の担当を定めて、高卒認定試験の複数科目に対応できる体制を取っ
ている。また、名古屋地域においては、現役の大学生も指導者として関わっており、専
攻を生かした科目での学習支援を担当している。

若者・外国人未来応援事業は学習支援を受ける個々人の学習到達度が大きく異なるた
め、一斉授業形式の実施は困難であり、基本的には支援を受ける方の希望に応じた、個
別指導の形式をとって、一人一人の状況に寄り添った指導を心掛けて実施している。